松戸市×晴耕雨読

まつどし×せいこううどく

特集号

のーたび

おいしいものがいっぱいの松戸市が
コーヒーを使ったスイーツを推しているとのこと。
それは聞き捨てならないと松戸の街を巡ってみたら、
そこには素敵な歴史や風情、そして温かい出会いが待っていた

千葉県松戸市をぐるりと巡って、楽しさとおいしさをアテンドしてくれるということで、ワクワクが止められない私たち。

待ち合わせ場所は、松戸市の新名物「新松戸レモン」を直売している「MONPE」さん。目の前に並んだ朝に採れたばかりのレモンの爽やかな香りで、まずは心をリフレッシュ！

「これから始まる松戸巡りの前に、知っておくとさらに楽しくなるかも」とアドバイスをもらって、まずは「戸定が丘歴史公園」に行くことに！

さあ、おいしいだけじゃない、素敵な出会いが溢れた満足度MAXの旅のスタートだ！

Matsudo city ACCESS MAP

松戸市アクセスマップ

「の、たび」で巡ったお店と
プロジェクト参加店舗をご紹介します

プリンス徳川カフェ

CONNECT with MATSUDO

- 松戸市公式
- 松戸市 観光協会
- まつどやさしい 暮らしラボ
- 松戸市 ふるさと納税 ふるさとチョイス

松戸市×晴耕雨読 まつどし×せいこううどく

2021年12月1日発行　発行＝千葉県松戸市（広報広聴課 シティプロモーション担当室）
〒271-8588　千葉県松戸市根本387番地の5　047-366-7320

TAKE FREE｜無料｜

Recommended Trip NO・TABI

「戸定が丘歴史公園」内の松雲亭の縁側にて

昭武とコーヒーの出会いが私たちと松戸の出会いをつくってくれました。

徳川昭武とコーヒー ～松戸市と山梨県を結ぶ縁～

徳川昭武は、最後の将軍・徳川慶喜の実弟である。

次期将軍候補として期待されていた昭武は、1867年に将軍・慶喜の名代としてパリ万博に派遣された。この時、彼はまだ13歳でありながら、宮廷外交の最前線に立ち、ナポレオン3世をはじめ各国の元首と交流。イギリスの新聞は「プリンストクガワ」と報じた。

昭武の渡欧には、後に「日本資本主義の父」と称されるようになる渋沢栄一をはじめとする20名ほどのエリートが随行した。この使節団には、山梨県にゆかりのあるメンバーもいた。昭武の傅役に任じられた山高信離は、甲斐・武田氏と同族の源氏の名門山高家の養子となり、同家の当主となった人物である。樹齢2000年とも言われる山高神代桜が有名な山梨県北杜市の実相寺は、信離の先祖の居館跡に建てられたものだ。もう1人、杉浦譲は甲斐国山梨郡府中（現山梨県甲府市）の出身で、後に郵政事業創設に携わったことで知られる人物である。

昭武がコーヒーに出会ったのはこの渡欧のとき。パリへ向かう船中やシェルブールの海岸で、渋沢栄一らとともにコーヒーを楽しんだ。昭武は、仏文日記にモカ（現在のイエメン国内）がコーヒーの名産地だと書いている。

日本は明治維新による時代の転換期を迎え、昭武は将軍になることなく、華やかな表舞台から去っていった。しかし、彼が渡欧で培った豊かな感性は、その後も輝きを失うことはなかった。松戸には、そんな昭武の知られざる歴史のロマンがある。

歴史を五感と結び付け共有することは文化を守ることにつながると考え、松戸市観光協会では「プリンス徳川プロジェクト」を始動した。

イエメン産モカをフレンチローストして当時のコーヒーを再現した「プリンス徳川カフェ」。これを活かした新しい名産品が生まれている。

そのおいしさと出会う「の、たび」。そして、昭武の和と洋を調和させた美意識を、徳川家の遺風を伝える戸定邸&庭園を訪ねる「建築探訪エッセイ」。

松戸の魅力を、五感で楽しんでみませんか？

Recommended
SPECIALTY
おすすめの特産品

松戸をトコトン堪能！

街と人の優しさが
おいしさの隠し味なんです

「松戸ってなんか居心地がいいよね！」背の高いビルやマンションの、都会を感じる道中にドキドキしてたけど、到着した松戸の街の雰囲気にホッとする。昔ながらの風情が残る商店やおしゃれなカフェが点在していて「ここもあそこもいいな～」って目を輝かせながら巡り着いたのは「アビルコーヒー」さん。程よい酸味がおいしいプリンス徳川カフェのコーヒーを味わいながら「帽子みたいな形がかわいい～」って注文したコーヒーマフィンは、言わずもがなコーヒーとの相性はバツグン！コーヒーの楽しみ方って飲むだけじゃないことを知って、概念が変わったかも!?

ランチは「コワーキングスペース フラット」さんで、おしゃれなカレーやホットサンドを食べながら、ずっと飲んでみたかった「氷コーヒー」を一口。最初はミルクで真っ白なのに、コーヒーの氷が溶けるとカフェオレに。見た目も味も変わって、楽しくておいしい！食べながらコーヒープロジェクトに参加してる店舗数を聞いて「全部のお店制覇したいね！1日で回りきれるかな(笑)」って、ついつい欲張っちゃうのはいつものこと。

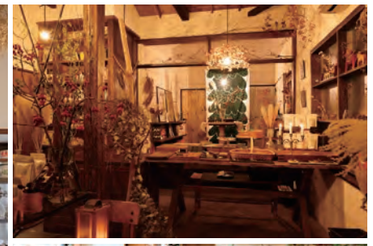
次の目的地に向かう途中、気付いたのは子どもたちの笑い声。すれ違えばバイバイって手を振ってくれる子や街の人たちの幸せそうな顔を見て、こっちまでほっこりした気分になっちゃった。

歩いていたら少し暑くなってきたので、ジェラートでもと「ジェラテリア スミヤ」さんに。私はプリンス徳川カフェ、KONOは梨のジェラートを注文。「千葉県内の各地で獲れた食材を使ったジェラートは、ここでしか味わうことができないものです。どこにもない手作りの味ですよ」と地元の味を堪能しちゃいました。

最後に欠かせないのがお土産選び！私たちがチョイスしたのは、アンティーク調の内装が素敵な洋菓子店「ポムスール」さんのシフォンケーキや宝石みたいなケーキがいっぱい並ぶ「パティスリー ハヤトヤマダ」さんのフィナンシェ、地元で人気がある「ポニー」さんのブランデーケーキ、古民家を改装した隠れ家みたいな「ピッククッカ」さんのマドレーヌ…。

店主さんのお話もすごく楽しくて、お店に詰まったこだわりが街の人にも愛される理由なんだと納得。そして、コーヒーの魅力に気付いちゃった私たちは、コーヒー豆も一緒に購入。家に帰ったら早速一緒に飲んでみよっと。

※撮影時に限りマスクを外していますが、各店舗では新型コロナウイルス感染症対策をしっかりと行っております。



松戸市役所の屋上からは、緑豊かな自然と東京スカイツリーや高層ビルなどの風景が望めます（写真は市役所屋上からドローンで撮影したものです）。

帰りたくないね、今日回れなかった
お店のリベンジ旅はいつにする？って
盛り上がる晩ごはん。
もういいよ泊っちゃおうよ、
今日の続きは明日にしよう！
歴史のある建物とおしゃれなお店、
暮らしやすさが混ざり合った街、松戸。
昭武とコーヒーの出会い、
松戸と山梨の縁…。
意外な山梨とのつながりが
とても身近に感じちゃった。
いっそのこと住んじゃいたいくらい、
この街が気に入りました。
次の休みもまた来よう！
今後もプロジェクトの参加店舗が
増えるみたいだし、
今度はどこに行ってみようかな!?

PRINCE TOKUGAWA PROJECT COLLABORATION PRODUCTS

＼目指せ完全制覇！／

プリンス徳川プロジェクトから誕生！

当プロジェクトは、松戸の名産品を作ってより一層地域を盛り上げようと、コーヒー「プリンス徳川カフェ※」を使用した松戸市内各店とのコラボレーション商品の開発を進めています。2021年11月16日現在、19店舗とコラボした商品を一挙にご紹介します。

※株式会社サザコーヒーによって再現された19世紀当時のコーヒー

戸定珈琲月餅

天廣堂（てんこうどう）
松戸市松戸1339-1／047-382-5250

珈琲ラスク

葛飾屋製パン
松戸市松戸1775／047-362-2025

深煎り珈琲&フレンチロースト

ピーナッツサブレー本舗　千葉とみい
松戸市金ケ作408-328（本店）
047-388-7500

1867 巴里コッティ

Binasce
［ビナーシェ］
松戸市新松戸4-220-2／070-8421-5049

松戸&プリンス

Patisserie Hayato Yamada
［パティスリー ハヤトヤマダ］
松戸市秋山1-16-2／047-382-6897

ショートブレッド&マドレーヌ

pikku kukka
［ピックククカ］
松戸市松戸1151-2／070-4220-2444

戸定あんぱん

Boulangerie La Masia
［ブーランジェリー・ラ・マシア］
松戸市松戸1349／047-701-5154

珈琲ブランデーケーキ

お菓子工房 ポニー
松戸市三矢小台4-14-2（三矢小台店）
047-367-0118

プリンス徳川珈琲バターサンド

トラットリア イル・レガーロ
松戸市本町14-14／047-710-8646

氷コーヒー

Coworking Space Flat Café & bar
［コワーキングスペース フラット］
松戸市新松戸3-289 Sbc第一ビル2F／047-710-3381

プリンス徳川昭武が愛したティラミス

pâtisserie ma-sa
［パティスリー マーサ］
松戸市小金きよしケ丘3-10-9／047-316-1234

珈琲ヴァイツェン

松戸ビール&タップルーム（優歩）
松戸市松戸1151／047-711-7218

コーヒーカステラ

castealla
［カスティーラ］
松戸市新松戸4-152／047-710-4279

プリンス徳川コーヒータルト

atellier ありをり
［アトリエ ありをり］
松戸市常盤平5-8-13／090-1602-3566

プリンス徳川カフェジェラート

Gelateria Sumi-ya
［ジェラテリア スミヤ］
松戸市日暮5-239 ちばハ柱ビル／047-389-0818

プリンス徳川コーヒーマフィン

abillcoffee+
［アビルコーヒー plus］
松戸市新松戸3-265-101／090-8765-3157

＼お取り寄せできます！／

お取り寄せ方法や各店の詳しい情報は
プロジェクトのWebサイトをご覧ください
※Flatの氷コーヒーのみ取り寄せできません

珈琲わらび

竹和（たけわ）
松戸市上本郷2105-5／047-364-2772

松戸戸定珈琲サンド

高級食パン専門店 麥乃（むぎの） 松戸店
松戸市松戸1176-13／047-700-5584
※季節限定の商品もございます

プリンス徳川カフェシフォン

Pomme Soeur
［ポムスール］
松戸市六実4-5-1石原ビル1F／047-311-7950

プリンス徳川の愛した邸宅と庭園 戸定邸

甲州千秋/文
text : Chiaki Kosyu
久保田陽一/撮影
photograph : Youichi Kubota

■場所　松戸市松戸714-1
■建築　明治17年4月完成　庭園は明治23年完成
■区分　国指定重要文化財(戸定邸)
　　国指定名勝(旧徳川昭武庭園)

晴耕雨読｜建築探訪エッセイ
人がつくる家・家がつくるドラマ vol.31

遠くには富士山の秀麗な姿、そして眼下には江戸川の流れを望む風光明媚な小高い丘の上に「戸定邸」が完成したのは明治17(1884)年のこと。幻の将軍とも呼ばれる徳川昭武の美学が反映された気品漂う「戸定邸」を訪ね、幕末から明治へと、日本が近代化に向けて大きく舵を切った歴史の転換期に思いを馳せる。

昭武の高い資質を見抜いたのは慶喜であった

徳川昭武は嘉永6(1853)年に水戸藩9代藩主・徳川斉昭の18男として誕生した。江戸幕府最後の将軍を務めた徳川慶喜は16歳年上の異母兄にあたる。年齢に開きがあることから、幼い頃から仲が良かったというような関係ではないが、昭武が10歳の時に京都へと上京し、慶喜とともに京都御所警備を行うなど、公的なつながりを持つ中で、慶喜は昭武を高く評価するようになっていった。そして慶応2(1866)年、将軍家の家督を継いだ慶喜は昭武を水戸家から将軍家に迎え入れ、後の将軍となり得る身分を与えたのである。

▲パリでの徳川昭武の衣冠姿。

▲表座敷客間から庭園を望む　最上級の杉材を生かした造りは、落ち着いた雰囲気を醸し、簡潔だからこそ静かな気品に満ちている。庭園との一体感が心地良い。

将軍・慶喜の名代としてパリ万国博覧会へ

陰りを見せ始めていた江戸幕府の再生を図るため、将軍・慶喜はフランスとの連携を強めていた。その中で、パリ万国博覧会へ参加するため、慶応3(1867)年に昭武を名代として派遣する。この時、昭武は13歳であった。

パリ万博は日本が初めて公式に参加した万博であり、宮廷外交におけるデビューとしても大きな意味を持つものだった。そこにまだ少年だった昭武を派遣したのは、慶喜が昭武を次期将軍候補と考え、パリで多くを学んで欲しいと期待していたからだ。また、兄弟の中でもとりわけ昭武との相性が良く感性も似ていたであろうことも、昭武が大人になってから、2人で趣味の写真を楽しんだ様子からもうかがえる。

▲茅葺門(かやぶきもん)　華美でない落ち着いた風情の門構え。

外交の最前線で活躍するも時代は変革の時を迎える

昭武には、渋沢栄一、向山一履(むこうやまかずふみ)、山高信離(やまたかのぶあきら)、杉浦譲(すぎうらゆずる)ら20名ほどが随行した。日本は長きに渡る鎖国により、オランダ・清(中国)など限られた国以外の外国との交際を拒絶し続けてきたため、パリは昭武にとって未知なる環境だった。しかし、好奇心があり、新しいことにチャレンジすることを恐れない昭武は、初めての体験の中でベストを尽くした。また、使節団一行も西欧から多くを学び、後に近代日本の構築にその力を大いに発揮することとなる。

パリに到着した昭武は、将軍名代としてフランス皇帝ナポレオン3世に国書を奉呈。昭武がナポレオン3世に会いに行く際には、数千人の見物人が出たという。さらに万博の主要行事終了後には、ヨーロッパ各国を歴訪し、元首らを表敬訪問した。彼は国際交流の最前線に立ち、日本の歴史上類を見ない外交を成し遂げたのである。イギリスの新聞は、有力な次期将軍候補「プリンス・トクガワ」として報じ、各国の新聞にも大きく取り上げられた。

万博終了後、昭武は当初からの予定通りフランスで留学生活に入った。フランス政府から教育責任者として派遣された軍人・ヴィレット中佐の統括のもと、語学・歴史・馬術をはじめとするさまざまなヨーロッパ貴族階級の文化を学び、教養を深めていった。しかしその頃、日本では明治維新という大変革が進んでいた。慶喜からは留学を続けるようにとの手紙が届いたが、幕府復活を支持する勢力の旗頭と

▲離座敷（秋庭の間）　戸定邸落成から2年ほど後に、昭武の生母・秋庭のために増築された。丸窓の下の材料など、奥座敷より良い物が使われており凝った意匠になっている。

▲表座敷 中の間から奥座敷を見る　それぞれの部屋から庭が眺められ風景が見やすいように柱や建具の位置が計算されている。

▲表座敷　客間・二の間全景　昭武は、皇太子時代の大正天皇や徳川慶喜も戸定邸に迎えている。64枚の畳が使われており、庭に面している部分の軒桁は、つなぎ目のない1本の木材でできている。

▲使者の間　玄関横にある従者が使った部屋。欄間には福を招くコウモリの紋様があしらわれている。

▲湯殿　浴槽は、昭和初期のものと考えられる。洗い場が広く天井も網代編みの意匠の贅沢な造りとなっている。

▲奥座敷（八重の間）　後妻の八重が使用した。昭武の寝所としても使われた。

▲昭武が好んだ富士を望む場所　庭の西側のアオギリの木立は絶妙な間隔が空いており、客間の床柱の前あたりに座り富士山を眺めると、アオギリが額縁のようになり美しい。

▲庭園　洋風技法による芝生面は、日本に現存する最古のもの。東から南に連なるコウヤマキ。4本の大木は昭武が選びこの地に運ばせたもの。和と洋が融合した、昭武の美学が大きく生かされた庭である。

なり得る昭武を警戒した明治新政府は帰国命令を出し、昭武はこれを受け入れた。帰国後、最後の水戸藩主となったが、すでに江戸幕府は存在せず、彼は幻の将軍となったのである。

人との縁、西欧の文化 昭武の感性が育まれていった

廃藩置県後、陸軍少尉となっていた昭武は、明治9（1876）年にフィラデルフィア万国博覧会の御用掛として渡米した。海外経験を評価されての派遣とも言えるが、要職ではなかった。その後、昭武は2度目のパリ留学をしている。彼は学ぶことを諦めていなかったのだ。そこで再会したヴィレットとは、その後も文通をしながら心を通わせ、年齢・国・身分などの違いを超えて、ヴィレットが亡くなるまで交流を続けた。帰国後、昭武は天皇に近侍し、定期的に拝謁（はいえつ）を賜る麝香間祇候（じゃこうのましこう）となった。そして明治16（1883）年、水戸徳川家の家督を甥の篤敬（あつたし）に譲ると、昭武は29歳で隠居したのである。

昭武は人生の折々で、人との出会いとその縁を大切にした。そして少年期と青年期の2度にわたる西欧での体験は、彼の豊かな感性と人間性を培ったと言える。和と洋が混在し、美しく調和した戸定邸と庭園がそれを物語っている。

理にかなった造形と凛とした引き算の美学

明治17（1884）年、約2年の年月を経て完成した戸定邸に、昭武は生活の拠点を移した。明治天皇に仕える麝香間祇候として、定期的に皇居に赴く時などに利用した都内の水戸徳川家本邸との行き来にも、かつて江戸と水戸を結んだ水戸街道の宿場町であった松戸は都合の良い立地であった。

戸定邸は木造の平屋で一部2階建てになっている純和風の建物で、9棟が廊下で結ばれ、23の部屋がある。建物内は、来客用の「表（おもて）」と、家族と使用人用の「奥」に明確に区分され、その空間で過ごす人のことを考えて設計されている。シンプルな中に非常に凝った部分が随所にあるが、それを微塵も感じさせない謙虚さがある。まさに引き算の美学と言える気品だ。日本と世界の最高のものを見てきたであろう昭武が到達したひとつの境地、それが戸定邸と庭園だ。やわらかな曲線を描くような庭園。空に伸びるコウヤマキの堂々とした樹形。アオギリの木立の向こうに望む富士山。青々とした芝生。これらを見渡すために柱や建具が邪魔にならないよう、計算された表座敷。決して出過ぎず、飽きさせない絶妙なバランスは、見る人を静かに楽しませてくれる。

昭武はこの美しい自然との一体感の中で、親しい人々を招いて時には写真や狩猟、陶芸などの趣味に興じ、充実した人生の時間を重ねたのだろう。彼がよく座っていたという客間の一角に腰を下ろすと、言いようのない心地良さに包まれていくのを感じた。どんな時も人間関係を大切に、共に過ごす時間を楽しんだ昭武。彼は自分が置かれた立場を理解し、求められることを精一杯実行し、その中で自分のやりたいことを叶えていく能力があった。そして、人に好かれる魅力的な人物だった。

春夏秋冬、美しい自然の彩りに包まれ、戸定邸は徳川家の遺風を今に伝えている。

松戸市「戸定邸」「戸定歴史館」

入館時間　9時30分～16時30分　**休館日**　月曜日（祝日の場合は翌平日）
料金　一般320円（戸定邸・歴史館）　250円（戸定邸）　150円（歴史館）
高校・大学生160円（戸定邸・歴史館）　100円（戸定邸）　100円（歴史館）
※中学生以下無料（その他団体割引あり）
お問い合わせ　戸定歴史館　☎047-362-2050

戸定歴史館では、戸定邸に住んだ「徳川昭武」をモチーフにした開館30周年記念ミュージアムグッズをはじめ、図録「プリンス・トクガワ」やマスクコードなど、様々なグッズを販売しています。通信販売も行っていますので、ぜひご利用ください。

▲外庭にある復元された東屋。

Drone movie
戸定邸をドローンムービーで見てみよう！▶